

わか草



第45回 平成30年1月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

新年の「挨拶」

院長 加我 牧子



新年のあいさつにて
加我 牧子 院長

明けましておめでとうございます。
二〇一八年戌年が明けました。この
一年がみなさまにとって実り多い、心
に残るものになりますよう心から願っ
ております。

東京都立東部療育センターは平成二
十九年十二月、満十二歳の誕生日を迎
えました。人間のこともなら、この春
には中学校に入学する年齢です。自我
に目覚め、自分を考え始める年代にさ
しかかっていることとなります。

重症心身障害児（者）を守る会を創
立された、重症心身障害のあるお子様
をお持ちの保護者の方々は五十年以上、
お互いが争わないようにと自らを戒め
つつ、もっとも弱いものを一人のもれ
なく守る、というモットーをかかげ、
「守る会」を結成し、我が子「たち」
のためにさまざまなくみや制度を勝
ち取ってこられました。当センターは
これら重症心身障害児・者医療の向上
と革新、福祉制度の充実という基盤の
上で運営されています。私たちは、
「重い障害があっても生きていて良かつ
たと思っただけのような最善の医
療と暮らしを提供する」という有馬正
高名誉院長の志を受け継ぎ、緊張感と
誇りをもって仕事に励み、目的の達成
のため、助け合って自らを高めていき
たいと考えております。



朝日を浴びた早朝の富士山
(河口湖畔にて)

今年九月には岩崎裕治会長の下、当
センターあげて第四十四回日本重症心
身障害学会を開催いたします。学会を
通じて、命と暮らしを支える仕事の意
義が、学問としてもひろがっていき、
全国あるいは世界の重症心身障害児・
者のよりよい命と、より良い暮らしに
つなげられるよう努力したいと思いま
す。

◇ 光の教会

昨年秋、国立新美術館で建築家、安
藤忠雄の「挑戦」と題した展覧会が開
催されました。安藤さんは独学で建築
を学び、常に独創的、斬新な作品を国
内外に発表され、建築を学ぶ若者たち
の夢と教育に貢献していらっしやいま
す。設計を依頼された時はまず、「土
地を読む」と書いておられ、風土、空
間を考えつくし、依頼者、技術者、施
工者とともに具現化し、完成した瞬間
から、建物を利用する人々と周囲の社
会の中で育っていくとお考えのよう
でした。広い会場には思いもかけない建
築模型、写真、安藤さんのことばの数々
がありました。前評判も高かった、実
物大という光の教会のレプリカは、質
素な空間の中の光の意義、荘厳さを示
す圧倒的な存在感があり、いつもと違
う空間と時間を感じ、想像力が羽ばた
く楽しい時間をすごせ、勇気を与えら
れました。

光の教会のレプリカ内部



昨年は「守る会」北浦雅子会長につい
ての御本が出版されました。歴史を作
った方たちの大変なご努力も、伝える人
がいなければ、やがては忘れ去られて
しまいます。私自身はこの東部療育セ
ンターで、いのちのちから、いのちの
奇跡に日々励まされていると感じてお
り、常に歴史を意識しつつ、現在から
未来を考え続けていきたいと思えます。
皆様のご協力とご支援をお願い申し上
げます。



第44回

日本重症心身障害学会学術集会
(当センター副院長 岩崎裕治会長の下、
今年の9月に開催されます)

<学会ホームページより>



クリスマス会



サンタさんからプレゼントももらいました！

十二月七日(木)に三西病棟でクリスマス会が開催されました。

利用者様と職員の共同作業で手作りのスタンドグラスが飾られていき、三西病棟特製のクリスマスツリーが完成しました。スタンドグラスのオーナメントが光り輝く中、会は盛り上がりを見せていきました。特別ゲストと一緒に歌った本格的なゴスペルクリスマスソング、今年流行を取り入れた構成と、ミュージカル調の職員の出し物は会場を魅了しました。サークル活動紹介のスライドでは、普段の活動の様子や特別な装いを披露する機会となり、ゆったりと観賞

を楽しめる会となりました。

(三階西 西田)



本格的なゴスペルによるクリスマスソング



クラッカーでお祝いの様子



今年のクリスマスケーキ(栄養科)



プレゼントももらいました！



男性に囲まれて・・・

オータムフェスティバル



十月四日、第十二回オータムフェスティバルが開催されました。秋晴れに恵まれ、屋外療育場でのチャアダンスで盛大にスタート。

ゲームコーナーではゲーム機を使ってパイロット気分を疑似体験。悪戦苦闘しながらも貴重な体験ができました。アトラクションでは、沖縄民謡の優しい歌声に沖縄の風を感じ、踊りのレクチャーを受けたチャアダンス。ポンポンを持ちながら素敵な笑顔とダンスに大いに盛り上がりました。作品展では、今年もたくさんの出展があり、芸術の秋を感じる事ができました。

グラウンドフィナーレは職員バンドでした。チャアリーダーとのコラボ曲もあり、たくさんの元気を頂きました。皆様ありがとうございます。

来年も盛り上がりましょう。

(二階南 宮田)



オータムフェスティバル作品『にじいろのさかな』

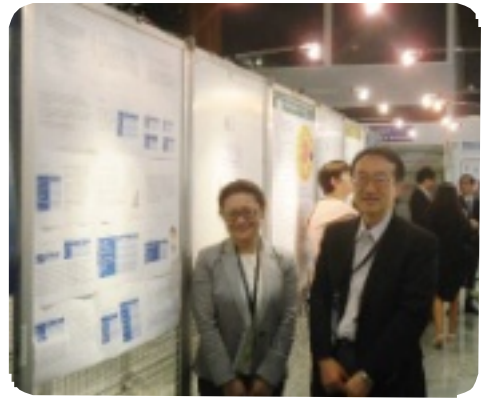


三線と心地よい声で魅了されました！



チャアダンスの皆さんと記念撮影

国際知的障害研究会（アジア大洋州地域会議）に参加して（タイ・バンコク）



岩崎副院長（右）と木原主任（左）
学会にて

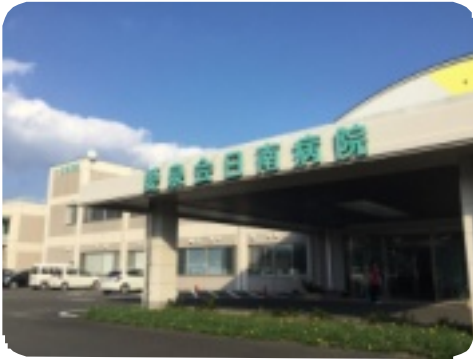
今年十一月国際知的障害研究会（アジア大洋州地域会議：バンコク）に木原主任と出席し、重症心身障害の短期入所の全国実態調査、東京都のグループホーム調査につき発表しました。この会議は知的障害に関連した医療・保健・教育・リハビリ・行政などの分野で携わっている人々が集まり、情報交換や、それぞれの研究テーマについて発表や検討を行う場です。四年に一回本会議があり、その間是一年ごとに北米、ヨーロッパ、アジア大洋州での地域会議を

行います。今回は十一月十三日、各会場にて教育講演や発表があり活発な議論がありました。また昨年当センタースタッフにこられたオーストラリアニューキャッスル大学教授のマイケルケリー先生から、エビデンスをどのように組織的に実践の場に活かしていくのかという内容で、実践科学の立場から障害児（者）を支援する人々の専門的な教育についての基調講演がありました。その夜には懇親会があり、プロのダンサーと、障害を持つ子どもたちによるタイダンスのアトラクションとファッションショーをタイ料理とともに楽しみました。（副院長 岩崎裕治）

脳科学からの情報」等、大らかな九州人らしいユーモアと宮崎弁を交えた興味深い内容でした。また十グループに分かれ「重症心身障害児者施設においての看護師育成を考えよう」というテーマで意見交換・討議を行い、最後の日は活発な全体討論で幕を閉じました。施設見学は、旧国立病院愛泉会日南病院で、日向らしく太陽と海の恵みをたっぷり受けた広大な敷地の中で、車椅子置き場や浴室・トイレが広く、建物・働く職員の明るさが印象的でした。

平成二十九年 全国重症心身障害児者施設職員研修会
看護管理研究会コースに参加して（宮崎県宮崎市）

平成二十九年十月三十一日（十一月二日（三日間）宮崎市内において、「重症心身障害児者の生活・人生を温かく支援できる看護師をどのように育成するか」というテーマのもと開催されました。全国から一四〇名近い重心施設の看護管理者が集まり、四題の講演聴講・グループワークに参加させていただきました。講演は「神話と古墳の古代日向の国の歴史」から始まり、「障がい者と支援者をつなぐ



施設見学にて
（旧国立病院 愛泉会日南病院）

（看護科長 山田）

全国重症心身障害児（者）を守る会
第二十七回関東・甲信越
ブロック大会に参加して
（茨城県水戸市）



会場のような

「最も弱いものをひとりももれなく守る」をテーマに、誰もが安心、安全に暮らすことができる社会、人を大切にすることができる社会をどのように築き、重症心身障害者をいかに守っていくのか考える機会とする。』を目的に茨城県水戸市で開催され、関東甲信越在住のご家族を中心に約三五〇名が参加されました。

びわこ学園医療福祉センター草津施設長口分田政夫先生を迎え、重症心身障害児（者）と私たちの「いのちの可能性」について考えることを講演頂きました。記録映画鑑賞では「おんもに出そう」「いのちとの対決」を放映されました。昭和四十年前後は現代とは比較にならないほど障害者が世に出ることが困難な時代であったこと、「親の会」発足等、現在に至るまでの計り知れないご苦労があったことを私自身が改めて知り、重症心身障害児（者）における基本的理念を考える機会となりました。

一人の命を守るにあたり、親行政、地域との連携を蜜に図り、みんなで考えることの大切さを強く感じた大会でした。

（三階南 高橋）



**全国重症心身障害日中活動支援協議会に
参加して** (広島県・広島市)

今年から協議会が一般財団法人として新たなスタートとなり、これからも重症児者を支援している事業所との情報交換や連携、研修などを進めていき、各種課題にも取り組んでいくことが宣言されました。今年の協議会の内容は行政説明から始まり、講演会では重症児デイを支援し運営するお話でテーマである「なければ創ればいい」という考えのもと、重症児を持つ親たちがネットワークを通じて通園施設を作る、その運営をバックアップする法人があり、実際に作られた通園施設はすばらしい内容でした。シンポジウムでは「姿勢」についての話し合いでした。変形拘縮が強くなってくる原因やどうすれば予防できるのかを検討されていました。また、分科会では「家族・地域」に参加させて頂きました。なかでも災害のときの送迎をどうするかという発表があり、とても参考になりました。(通所 谷家)

**第四十四回東日本協議会に
参加して** (北海道・札幌市)

十月二十六、二十七日紅葉に染まる札幌で日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会が開催されました。

一日目の記念講演は落語家林家とんでん平氏「笑って深まれ福祉の和」と題して、笑いによる効能についてユーモアや手話落語を交えつつ話されました。また、木実谷理事長より「療養介護事業の質の向上とガイドライン策定について」として講演が行われ、医療型障害児入所施設等と療養介護事業の一体運営が恒久

医局講演会

第十五回

(平成二十九年九月七日(木))
「発達障害の基礎理解—診断基準にふりまわされない支援—」

青山学院大学教授 古荘純一先生にご講演いただきました。自閉症、ADHD、学習障害などの発達障害は脳科学と当事者の両方の観点からみて症状を理解しサポートしていくことの重要性を指摘されました。

第十六回

(平成二十九年十月十日(火))

「Nieman Pick病c型とGaucher病の治療薬と最近の診療で感じたこと」

鳥取大学名誉教授大野耕策先生に、不治の病であった代謝変性疾患の臨床と研究から治療へのご自身の道程と、外来で出会うhypersensitivityについてご講演いただきました。

第十七回

(平成二十九年十月三十日(火))

「ウイリアムズ症候群における認知特性」

岡崎市こども発達医療センター所長中村みほ先生に、特徴的な視覚認知機能障害を示すこの稀な病気につき、多数の臨床経験からえられた研究成果をもとに、その他の発達障害の患者さんへの治療・支援の方法を考察することの大切さを教えていただきました。

第十八回

(平成二十九年十二月八日(金))

「腎尿路結石症のupdate」

東京女子医科大学泌尿器科講師家後理枝先生にご講演いただきました。尿路結石の頻度は高く、日本人男性七人に一人、女性十五人に一人が生涯に一度は経験する病気だそうです。先生は東部療育センターでも開設時から診療して下さいっており、重症心身障害の方々では頻度がさらに高く診断治療の工夫が必要であることを強調されました。



会場のようす

(事務室 佐竹)

**Isabell Rapin先生
追悼記念集会に出席して**



院長 加我牧子

Rapin先生はスイス出身のアメリカの小児神経学の泰斗であり、代謝変性疾患の黎明期から活躍され、こどもの言語障害の臨床、研究を重ね自閉症の概念を変革するような貢献をなさいました。集会は11月3日New YorkのAlbert Einstein大学の

faculty clubで行われ、Solomon Mosce教授はじめ、先生を慕う生涯にわたる多数の教え子や共同研究者、御家族が集まりました。私も先生の徳と業績をたたえ、先生を偲ぶ短いスピーチをしました。生涯心に残る集会に出席できたことを感謝しています。



追悼記念集会にて

病棟バスハイク

すみだ水族館

十一月八日、曇り肌寒い中ではありましたが、秋の気温を感じながら外出しました。保護者の方々とソラマチのフードコートで昼食を摂りましたが、海外の観光客や修学旅行の学生が多く平日でも賑わっていました。

水族館に入って一番に観たのが「クラゲ」でした。壁一面の水槽を泳ぐ姿は、皆を釘付けにしました。その他にも「ちんあなご」や「ぺんぎん」など



様々な海の生き物の姿に夢中になりました。

期間限定の「金魚展」では、大小様々な美しい金魚がいることを知り感激しました。(三階南 小山)

初めて見る
「ちんあなご」に
興味津々

通所

通所延長療育

十一月に通所延長療育の後半を実施しました。一日目は三名、二日目は六名、三日目は六名の方が参加しました。今回のゲーム大会は、みんなで円になり、賑やかな雰囲気の中で「いたいワニ」と「黒ひげ危機一髪」を行いました。ご飯を食べる時に、モアナと伝説の海のDVD観賞をしたりと、みんな楽しんで過ごしました。保護者の方からは「のんびり過ごす事ができた」や「普段出来ない事ができた」など嬉しい感想を聞くことができました。

(通所 木原)

作業療法 紙すきグループ

贈呈式

十二月十五日に二年間かけて作成したクリスマスカード百部をベストフード様に贈呈する贈呈式を行い感謝状を頂きました。(作業療法室)



贈呈式の様子

乳幼児通所 秋遠足

「電車乗車体験・門前仲町散策」



みんなで記念撮影

乳幼児通所では、十月三日、五日、六日に門前仲町に電車で秋の遠足に出かけました。三日とも天候に恵まれ、南砂町駅までにぎやかに出発しました。電車で初めて乗る御子様もおり、ちよっとドキドキしながらの電車移動でした。門前仲町では、深川不動尊のお不動様の迫力や八幡宮の大きな鳥居にびっくりしながら、散策を楽しみました。保護者の方と電車に乗ったり、お寺や神社の参拝をしたりと、普段の活動とは違う経験をして、子ども達の表情も生き生きとしていました。

(乳幼児通所 齊藤)

かもめ分教室

墨東祭

十一月二十四日(金)と二十五日(土)に墨東祭があり、かもめ分教室の生徒が全員参加できました。



墨東祭にて
(先生たちと記念撮影)

(療育部)

職場体験

都立両国高校附属両国中学校



職場体験に来てくれた
両国中学校の皆さん

十一月七日(火)から三日間、中学生の職場体験がありました。センターの様々な職種の職員から、それぞれの仕事についてのレクチャーを受けました。医師、薬剤師、リハビリ関係、福祉関係の仕事に就きたいなどの感想がありました。(療育部)

理学療法室では、七人の理学療法士が入所・通所・外来の利用者を担当し、リハビリテーションを行っています。対象者によってその内容は異なりますが、大まかに説明すると、身体が固くならないように、身体がよりしっかりするようという取り組みや、移動が効率よくできるような練習や、楽な姿勢の検討、車いす等の補装具類の作製・調整等を行っています。

お部屋の一方で小さい子が泣いていると同じ時間帯にリハビリをしている大人が心配そうな表情になり、中には一緒に泣

いてくださる方もいらっしゃいます。逆に、可愛い笑い声が響くと皆も思わず笑顔になる場面もあり、そんな緩やかな雰囲気です。それぞれのリハビリに取り組んでいます。何か相談がありましたら、いつでも気軽にお声掛けください。

(理学療法室)



リハビリの様子

クリスマスサーモンムース
～ 栄養科 ～



栄養量 (1人分)	
熱量	189kcal
タンパク質	12.9g
脂質	13.4g
食塩相当量	0.6g

材料 (1人前)

サーモン	50g
食塩	0.2g
ホワイトペッパー	少々
クッキングワイン (白)	4g
鶏全卵	10g
生クリーム (高脂肪)	15g
水	10g
バター	1g
-----	-----
オリーブ油	2.5g
バター	0.3g
クッキングワイン (白)	1g
食塩	0.2g
黒こしょう	少々
赤ピーマン	10g
黄ピーマン	10g

作り方

マグロ脂身やクリームは融点が低いので、つるつと飲み込みやすい食物です。この特性を利用して、多くの方が好まれるサーモンをテリーヌ状に仕上げます。

- ① 生鮭の身とバター以外の材料を合わせてフードプロセッサーにかけて滑らかにする
- ② 蒸し型にバターを塗り、①の材料をいれて蒸し、冷ましておく(お鍋でも簡単に蒸せます)
- ③ ピーマンは5ミリ角に切り、オリーブ油以下の材料で作ったドレッシングと合わせておく
- ④ 皿にサーモンムースを盛り付け、ドレッシングを添える
- ⑤ ゆで人参を星型にして、ムースを飾る

ゼリーやムースが得意という方までお勧め出来る、食べやすい形態の料理です。この他に「オクラ・山芋・納豆」等も口腔内でばらつかない食物です。

東部あれこれ

十月から十二月の話題です。

【十月】

十月は雨模様の日が続き、気温も低く三十日には木枯らし一号も吹きましました。そんな天候にもめげず、バスハイクや交通機関を利用した外出などの活動を楽しまました。四日のオータムフェスティバルの日は、皆で楽しいひと時を過ごし、又、ウニを素材にした行事食を堪能しました。



オータムフェスティバル
作品 (二階西病棟)

【十一月】



十一月に入ってからようやく晴れる日が多くなってきましたが、早くも冬のような寒さです。

今月は文化祭シーズン。学齢児は墨東祭に参加したりかめめ分教室の学習発表会で成果を発表したりしました。又、各病棟や通所での様々な活動を通して新たな発見や体験をしました。

【十二月】

冬晴れの一段と寒い日が続く師走となりました。一日はセンターの開設記念日。満十二歳となりました。栄養科では開設記念特別メニュー(ちらし寿司他)を提供し、皆で祝いました。

クリスマス会は各病棟成人通所、乳幼児通所ごとに工夫を凝らした企画で楽しみました。又、豪華なクリスマスケーキとシャンパンで、ご家族等とともに祝福しました。そして大晦日。今年も年越し蕎麦を食べながら、西年から戌年へと年越しです。

【編集後記】

明けまして、おめでとうございます。新春を新たな気持ちで迎えられる事とお喜び申し上げます。今年九月に当センターが担当します第四十四回日本重症心身障害者学術集会が行われます。開催に向けて職員一同準備を進めているところです。今年一年の皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。

←これまでのわか草を
ご覧になりたい方は
こちらからどうぞ

